

そよかぜ

題字 小野倉藏

なかべ学院
中部少年学院後援会

〒750-0081
山口県下関市彦島角倉町
3丁目6番17号
TEL (083) 266-1934
発行 広報部
印刷

(株) ナカハラプリンテックス
TEL (083) 266-4601



地域交流

児童養護施設なかべ学院
施設長 咲賀信幸

子ども・子育て支援新制度が施行され、児童家庭福祉が大きな転換期を迎えた平成の終わりに、中部少年学院では、乳児院と紙風船の新築移転というとても大きな変化がありました。元号も令和に変わり、中部少年学院にとっても大きな変革期となりました。昭和二十一年の開設以来、地元角倉町や彦島の皆様を始め、下関市内外や県外の沢山の方々にお支えいただき、またご指導ご協力をいただき、中部少年学院の今日がありますことにあらためて感謝申し上げます。

日頃からお世話になっている皆様に「おかげさまで、学院の子ども達はこんなにくすくすと成長していますよ」と、その様子を垣間見て頂ける機会になるように、中部少年学院では四つの地域交流行事を行なっています。今年も旧乳児院舎の撤去工事で残念ながら『さつき祭』はできませんでしたが、八月十七日には『盆踊り』を行ないました。「おやじ(注:創設者小野倉藏)と盆明けの十七日なら中部に行けると約束したから」と、約四十年前の約束を守り続けていた山の中町平家踊り保存会の太鼓と音頭に、熱さも忘れ、今年も地域の皆さんと踊ることができました。

残るは体育の日(今年は十月十四日)の『運動会』と暮れの『クリスマス会』(十二月十四日予定)です。乳児院と紙風船の移転で乳児の参加が難しくなったことで、今までのような活気や華やかさ、可愛らしさに欠けるかもしれませんが、ご案内をさせていただきまので、ぜひご来院いただき子ども達の成長を見守っていただきたいと思います。

さて、乳児院なかべ学院の建て替えと小規模化は無事に終わりました。次は、児童養護施設なかべ学院の小規模化と地域分散化及び高機能化・多機能化等に向けて動きだすこととなります。今後、さまざまなご支援やご協力をお願いすることと存じますので、その節にはどうかよろしく願いいたします。

児童養護施設

風花ホーム 今年度の風花ホームは十五名での生活が始まりにぎやかな毎日を送っています。好きなアイドルグループの話で盛り上がりテレビ録音を見ては「みてみて。かっこいい」と黄色い声が響いています。グループの中でもそれぞれ好みがあるようで「私はこの人が好き」「え、私はこの人が好き」とお互いに話し微笑ましい場面もあります。



夏休みには夏ならではの行事を計画していましたが今年も台風の影響でキャンプやプールに行かれず別プログラムに。男子ホームが計画通りに行った事に対して「するいやん」と言う事もありません。天候不順は仕方ないけど、納得いかなかったようです。キャンプの為に準備した物で皆が協力し、焼きそば焼き鳥バーベキュー等の昼食作りをレオードフル形式の配膳でいつもと違う食事を喜びました。長かった夏休みもアツという間に終わりはアツと2学期を迎えホッとしている今日この頃。



海ホーム 海ホームは今年度高校に入学した子どもが多く、全体的に高校生が増え、新たなスタートをしました。それれ勉強に加え、新たな活動も新しい環境の中でも頑張っています。今年の夏は悪天候が続く、予定していた夏の行事が中止する事になり、比較的室内で過ごすことが多くなりました。それでも、空内や青少年自然の家への宿泊体験や、花火大会、夏祭りなどそれぞれ楽しむことが出来ました。宿泊体験では海水浴やカヤックに加え、肝試し、そうめん流し、バーベキュー、花火などの夏ならではの遊びを満喫しました。また、学院行事や町内行事では準備や手伝いなどもしっかり行う姿も見られ、頼もしく思います。

月ホーム 今年の月ホームは、今まで一番の人数となりました。穏やかな月ホームがガラツと変わり、良くも悪くも戸惑いながらもスタートでした。戸惑いが楽しさや乗り越えること大騒ぎまで発展する日々。笑う事にも体力が取られることを知りました。

そんな状態で迎えた夏休み。今年も空にならぬ。キャンプが2年連続雨天プログラムになって、ポイントの風です。でも、バーベキューができなければ、中ではすばしいじゃないかとこのことで、ガスコンロにフライパン、ホットプレートで大盛り上がり。映画を観たりピンゴもしたりと、それはそれでとても素敵な思い出になりました。自分の思い通りにならないことはたくさんあります。それでもその中で自分だけ楽しめるのは自分次第。行錯誤を繰り返して、最後はみんな笑顔のホームです。



鳥ホーム 三月末、鳥ホームに今まで一番小さな二歳六か月の男の子がやってきました。「かわい」「ちっこい」と言いながら、皆で囲んで色々な事を教える。それに対応する赤ちゃんを見て「笑いな、それにおもしろい」と言いつつ、お兄ちゃんも、半年で言葉が増え、生意気な言うように、「分かるとつや」「なんでか」「や」「ごいお兄ちゃん達を挑発することもある。それでも、お兄ちゃん達が、腹を立てる事の方が少ない状況に驚いています。ちびちゃんのお陰で、皆が成長出来ているような印象を受けます。



夏休み。今まで三年間頑張ってきた部活を引退したお兄ちゃん。よく頑張りました。いよいよ受験勉強です。頑張ってください！皆で海やキャンプ、お祭り等色々な夏行事を体験しました。とても良い表情をして遊ぶ子ども達を見て嬉しくなりました。あっ！当然、宿題もしっかり取り組みましたよ。

そよ風

今年の夏は旧乳児院の解体工事のため屋外での遊びができず、外出イベント、料理制作など昨年中では違う内容を全員で入れ取り込みました。その中でも子ども達、全員でつくり上げた作品を四月より重点的にしており、この夏はモザイクアートをメインで取り組みました。今回は綿棒を使用し、来年に迫った東京パラリンピックのマークを作成することにしました。綿棒を二つに折るところから始まり、マークのカラーである赤、青、緑に色を塗り発泡スチロールに刺す工程をおこなっていきました。子ども達によつて折るのが得意な子、刺すのが得意な子など自分が頑張れるところで少しずつ作り上げていきました。



みんなで作った作品がいろいろな人に見てもらい子供たちにとつて自信につながるは幸いと考えています。

乳児院

光 光ユニットは、さくらグループ七名ちゆうりごがグループ五名の乳幼児たちが生活しています。さくらの七ヶ月までの乳児は毎日元気のななき声でミルクを催促します。大きな窓からの陽射しを受けた明るい室内で保育者が抱っこされながらゆったりと授乳タイムを楽しみます。時には青々と広がりたる芝生にシートを敷き外の景色を楽しんだりベビーカーに乗って院庭を散歩したりして過ごします。語りかけると可愛い笑顔を見せ「アー」「ウー」とおしゃべりをすちゆうりごは、二組の姉妹と男児名。お姉ちゃんに妹の頭を撫でたり抱っこしようとしたりとお世話する微笑ましい光景を目にします。この夏は中庭のプールで水遊び、甚平等で夏を満喫し、初めてのかき氷やスイカ割り、初めとした。雨の日でも広いフレイイルームで他ユニットの児と押し車やボールプールで遊んだり、長い廊下を走ったりと伸び伸びと遊んでいます。これからも子ども達一人ひとりに寄り添った養育を職員一丸となつて心がけたいと思います。



輝 ひまわり、ももグループから成る輝ユニットは、お話しすること身体を動かすことが大好きな三才男児、可愛い声と動作で自己主張する二才女児、居室中を這いながら元気な囁語を喋る0才女児などの計九名が賑やかに伸々と楽しく過ごしています。

新築の匂いが残る広い居室の大きな棚から自由に玩具を取り出し、時々ケンをしながらも仲良く遊びます。年下の児に玩具を渡したり哺乳瓶に手を添えたり、あやしてくる姿は何とも微笑ましいものです。院外に出かける機会が増え靴を持ってきて「行ってきたい」「アピール」します。中庭の芝生でしゃぼん玉プール、花火を楽しみ玄関外の遊具で汗だくで遊んでいます。年齢差、月齢差があるため個々に合った生活や遊びを行いながら「やりたい」を大切に「楽しい」「嬉しい」を皆で共有しキラキラ輝く笑顔がこれからも見られるよう、しっかりと甘えを受けとめて成長を見守っていきます。

夢 いつも元気がいっぱい、好奇心旺盛な夢ユニットは、女児三名男児名のすみれグループと男児三名女児名のたんぽぽグループです。八名の子とも達とつ屋根の下で日々楽しく生活しています。夏、青々とした芝生の上を初めて裸足で歩いた時は、感触に驚き、つま先立ちで歩き、慣れると「キヤツキヤツ」と大声で笑い走り回っています。プール遊びでは、水を怖がり泣いて抱っこを求め、水鉄砲で水をかけあい、喜び、嬉しなど様々です。花火は保育者と一緒に持つて火花をじつと見つめていました。菜園で出来たミニトマトをその場で食べた時、収穫した西瓜でスイカ割りや素麺流し等、楽しい体験がたくさんありました。日々、泣いたり、笑ったり、怒ったり、又笑ったりと表情豊かな子ども達と大きな夢を持ち、保育者も一緒に楽しく過ごしていきたいと思



紙風船

紙風船は、乳児院と共に、今年の3月に古屋町に移転しました。センター長、相談支援員5名、常勤心理担当職員1名、非常勤心理担当職員3名で新たなスタートを迎えました。

新しい相談室、心理療法室、家庭支援室として地域交流室は、利用児童にもとても評判がよく、喜んでもらっています。職員も新たな気持ちで支援をしています。

昨年度から始まった市からの委託事業であることも家庭支援拠点事業も軌道に乗り、市とも連携を取りながら様々なケースに対応しております。

毎年行っている工作教室については、昨年まで彦島公民館で行っていましたが、今年は、紙風船の地域交流室でも行い、2教室で地域の子を募りました。どちらの教室でも意欲的に取り組むことが出来ました。

新天地でも地域に根差した子育て相談の場所となるよう、相談者に寄り添った姿勢を忘れず、支援をしていけたらと思います。



令和元年度 新入職員コメント

試行錯誤の毎日、とても充実しています。これからも子ども達が安心して過ごせる生活を支援していきたいです。
松尾 喜

慣れないことだらけですが充実した日々を送っています。子ども達が楽しく過ごしていきたいと思えます。
川端 折恵

まだまだ慣れない事がありますが、子ども達と良い関係を作っていけるようにしていきたいです。
丸尾 悠稀

ちやあちゃんが居たら安心して遊べる寝れると感じてもらえる様に頑張ります。
鶴田 マミ

子ども達との関りで試行錯誤の日々を過ごし、多くのことを学びました。これからも、笑顔を忘れず子ども達と関り、頑張っていきたいです。
山田 夏穂

日々子ども達と接する中で、子ども達が楽しく快く過ごせるよう笑顔でプラスの言葉掛けを行っていききたいと思います。
松尾 樺恋

子ども達に笑顔でお世話が出来る様、仕事に取り組みたいです。
土岐 美幸

子ども達の名前を大切に呼びぶことを心がけ、子ども達が安心して楽しく生活出来るようにこれからも頑張ります。
中尾 玲香

子ども達と元気がいっしょに遊んだり、お出かけしたりして楽しい思い出を作っていきたいです。
吉崎 紗智

子どもの「笑顔」を大切に、優しい心で子ども達と毎日楽しく元気に過ごしていきたいです。
岩田 妹子

特殊車両&いのちの旅博物館 見学

この度、後援会よりマイクローバスをチャーターして頂き、いのちの旅博物館とNEXTCO西日本の特殊車両見学に行かせていただきました。NEXTCO西日本では、皆様の暖かいお出迎えに感激しました。あまり慣れ親しむことのない数々の特殊車両に子どもたちも心の底からワクワクしていました。パトカーに乗ると、「前の車止まりなさい。」と現場に立ち向かう警察官になり、散水車では放水体験に興奮しておりました。また、大きなモニターを拝見することができ、これには大人も興味津々で大変貴重な経験をさせて頂くことができました。



社会福祉法人 中部少年学院後援会
平成30年度 収支報告書 (単位 円)

Table with 5 columns: 項目, 決算額, 予算額, 差引, 摘要. Rows include 収入の部 (年会費, 寄附金等, 利息, 当期収入計), 支の部 (事業費, 広報費, 総務費, 雑費), and summary rows for 当期収支差額 and 次期繰越収支差額.

社会福祉法人 中部少年学院 後援会 様
平成30年度の収支について、上記のとおり報告いたします。
令和元年 5月 17日
社会福祉法人中部少年学院 後援会 会計 濱村 美貴
監査の結果、上記のとおり整理されており正当と認めます。
令和元年 5月 17日
会計監査 小倉 國雄

オレンジリボン運動

「オレンジリボン運動」とは、「子ども虐待のない社会の実現」を目指す市民運動です。オレンジリボンは、そのシンボルマークであり、オレンジ色は子どもたちの明るい未来を表しています。多くの方に子ども虐待の問題に関心を持っていただき、市民のネットワークにより、虐待のない社会を築くことを目指しています。
下関地区では、子ども達に関わる様々な関係団体が集まり、来る11月17日(日)10時〜下関駅前人工地盤(エキマチ広場)周辺にて、「オレンジリボンたすきリレー」(下関2019)を開催致します。今年は今会場を唐戸カモンワーフから下関駅前へと変更し、またたすきリレーもランからウォークに、市民の皆様の参加しやすい大会になるように変更しました。
恒例のステーションイベント(よきこい、ヒップホップダンス、保育園児パレード等)や、参加無料のちびっ子コーナー(ヨーヨー釣り、バルーンアート、綿菓子、ポップコーン等)もあります。どなたでも参加できますので市民の皆様の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

問い合わせ先 紙風船 TEL0833-25008721



【寄附・寄贈】 (順不同 敬称略)
平成31年4月〜令和元年9月
たくさんの方々の皆様のご支援に
心から感謝申し上げます

- List of donors and recipients including names like 佐藤 恵子, 森源 太一, 阿部 敬子, 白石 家門, etc.

- List of organizations and individuals including 株式会社サキイボレインション互助会, 株式会社明治, 株式会社坂戸工場, etc.



啓さんの知恵袋
理事長 石川 啓

「保の一字」
保育者の「保」の一字は、「特別な衣でやさしく包まれた乳児を背負っている人」の象形で「命を大切に守る」という意味を表しています。保育・保護・保養等はその好例で「やすんずる」とも訓読します。

後援会加入のお願い
後援会事務局
法人年会費 一口 一万円
個人年会費 一口 千円
何口加入されてもかまいません。
お問い合わせはなかへ学院まで

TEL 083-266-1934

編集後記

大空も高く澄みわたり、ほんとうにいい季節になりました。皆様のご支援のおかげで子どもたちは元気にすごし、ラグビー日本代表を応援しています。この度は地域交流として、毎年十二月に「餅つき」「大掃除」と支援頂いています「西日本高速道路・北九州高速道路事務所」の企画により職場見学に行くことが実現し、子どもたちも先生も楽しい夏休みの日を過ごす事ができました。これからも、地域貢献、地域交流を後援会もさらに支援し協力していきます。

太刀山 逸男